

淀姫系3個（5ヶ所）、不明3個（5ヶ所）であった。腰岳系の黒曜石は全ての遺跡で出土している。印通寺の黒曜石は上対馬町大増の「ハゲ島遺跡」、上県町の志多留、巖原町の「クノエ遺跡」の3カ所と出土地は全島に散らばっている。「若宮神社遺跡」の5個の黒曜石は全て腰岳系であるが、160ヶ所南の岬上で採集した4個のうち2個が淀姫系である。「鬼ガ崎遺跡」の鬼ガ崎で採集した5個の黒曜石は3個が腰岳系で2個が針尾I群の黒曜石である。対馬北東部に位置する「五根緒赤崎遺跡」で採集した6個の黒曜石は3個が腰岳系で、針尾I群と淀姫系がそれぞれ1個、不明1個である。腰岳系と印通寺の黒曜石を運んだ縄文人は、腰岳→壱岐→対馬南端を経て西海岸を北上、もしくは腰岳→壱岐→対馬東海岸を北上する海路を利用したのではないかと推測する。針尾I群と淀姫系の黒曜石を運んだ縄文人はそれぞれの産地→松浦→壱岐→対馬東海岸を北上したと考えられるが、対馬市教育委員会と熊本大学が行った「越高遺跡」発掘調査において出土した黒曜石の多くは腰岳系であるが、針尾島産のものがわずかにある。これは産地別の集団が壱岐を経由するときに混ざったのではないかと推測する。壱岐印通寺産の黒曜石が対馬で見つかることで説明がつく。

5. まとめ

縄文時代の遺跡空白地であった対馬北部踏査を続け、「シレンナー遺跡」「鬼ガ崎遺跡」が遺跡登録された。「シレンナー遺跡」で表面採集した土器が縄文早期の曾畑式土器であることが判り驚いている。朝鮮半島由来の土器が多く出土する「越高遺跡」と同じ時代に、対馬北部で縄文人が生活していた証拠である。「鬼ガ崎遺跡」を構成する標高10ヶ所から20ヶ所の鬼ガ崎では大量の黒曜石製品が確認できる。条件が良ければ西に朝鮮半島が望め、渡航してきた小舟や魚類、海獣を見張りながら黒曜石を加工していたのではないかと考えている。砂岩質の赤い礫が岬先端近くにあるが、烽火や灯明で合図を送っていた証拠ではないか。詳しい調査が待たれる。

令和3年5月（2021）、上県町女連立岩周辺で縄文土器と石器、石積みを伴う遺跡を発見し、令和4年9月（2022）の踏査において石積みの下で隆帯文土器を、海食崖面下の平坦部で縄文早期の特徴を持つ黒曜石製の鋏形鏃を確認・採集している。「越高遺跡」「夫婦石遺跡」と同じ対馬西部にあり「夫婦石遺跡」から南西へ2ヶ所と近いことから、3箇所目の朝鮮半島由来の遺跡の可能性がある。長崎菜々子が行った黒曜石分析は産地（出発点）と使用地（終点）が判り、対馬までの航路を推定することができ意義深い。

6. 消滅の危機にある遺跡と消滅した遺跡

「シレンナー遺跡」は強風や高波、雨、野生動物の通過などで遺物包含層の崩落が進んでいる。新たな包含層も出ているが、大量にあった遺物は少なくなった。これからも定期的に訪れ見守っていききたい。令和3年5月（2021）、上県町の「女連立岩遺跡」南850ヶ所地点の多数の弥生土器（写真55）が露出する崖下の高潮線近くで、箱式石棺墓と思われる遺構（同56）を確認していたが、令和4年9月（2022）の台風11号と14号の影響を受け海食崖の弥生土器と遺構は消滅していた（同57）。去年は対馬地方に影響を及ぼした台風はなかったことから、今回の台風により消滅したと思われる。対馬の縄文時代の遺跡の多くは海岸部にあり、調査される前に消滅してしまうのではないかと心配している。



写真55 石棺墓と思われる遺構（遠景）



写真56 石棺墓と思われる遺構



写真57 台風後の様子

7. 謝 辞

対馬博物館の尾上博一氏、対馬市教育委員会文化財課の森悠統氏、熊本大学の小畑弘己先生、同志社大学の水ノ江和同先生、大瀬戸歴史民俗資料館の川道寛氏、長崎県埋蔵文化財センター（元職）の安楽勉氏には遺跡や遺物のアドバイスを頂き大変お世話になった。娘が新規の遺跡踏査を続けるきっかけとなった峰町歴史民俗資料館（当時）の阿比留伴次氏は、遺物鑑定や未周知の遺跡へ案内していただき、その後も情報交換を続けている。対馬北部踏査にあたり住民の皆様から地名と海岸の状況をご教授いただき、通過できない海岸の迂回ルートから踏査をすることができた。「西海考古」の皆様と、投稿を勧めて下さった水ノ江和同先生には感謝している。そして一緒に遺跡踏査を続けてくれた娘に『ありがとう』の言葉を贈る。

長崎 章

『ここに土器があるよ、遺跡がありそうなので調べに来てみれば?』と声を掛けていただき、遺物表面採集の許可を下さった皆さん、黒曜石成分分析の指導をして下さった長崎県埋蔵文化財センターの皆さん、遺跡や遺物のアドバイスをいただいた熊本大学の小畑先生、同志社大学の水ノ江先生、対馬博物館の尾上さん、対馬市教育委員会文化財課の森さん、川道寛さん、安楽勉さん、阿比留伴次さんにお礼を申し上げます。これからの目標は、対馬全島の踏査と対馬で見つからない旧石器文化を見つけることです。最後になりましたが、好きなことをやらせてくれる両親に感謝しています。

長崎県立上対馬高等学校3年 長崎菜々子

【註】

註1 川道 寛 氏（西海市教育委員会）実見（2020）

【引用・参考文献】

小畑弘己 2016 タネをまく縄文人－最新科学が覆す農耕の起源－
熊本大学考古学研究室 考古学研究報告 第51集・52集・53集・54集
坂田邦洋 1979 対馬越高尾崎における縄文前期文化の研究
長崎章・長崎菜々子 対馬島内の踏査記録2012～2022
長崎県教育委員会 1996 原始古代の長崎県 資料編Ⅰ
長崎県教育委員会 1998 原始古代の長崎県 通史編
長崎県埋蔵文化財センター 研究紀要 8号・9号・10号
長崎県埋蔵文化財センター 黒曜石の産地推定について（分析方法等記載）
東貴之 2005 【資料紹介】「対馬の縄文時代遺跡－豊玉町内新規遺跡踏査報告－
水ノ江和同 2012 九州縄文文化の研究－九州からみた縄文文化の枠組み－
水ノ江和同 2022 縄文人は海を越えたか「文化圏と言葉」の境界を探訪する

【協 力】

長崎県埋蔵文化財センター